

医療的ケア児、全国で推計 1.7 万人

厚生労働省研究班調査

人工呼吸器や喀痰吸引などの医療的ケアを必要とする小児（医療的ケア児）について実態調査を行っている厚生労働科学研究班の奈倉道明氏（埼玉医大総合医療センター）は 12 月 13 日、自治体担当者が集まる合同会議で、医療的ケア児の全国総数が 1 万 7,000 人に上るとの調査結果を報告した。

奈倉氏は、厚生労働省の「社会医療診療行為別調査」から、2005～2015 年度に全国で算定された在宅療養指導管理料のうち、小児在宅医療で算定される「在宅自己腹膜灌流指導管理料」など 20 項目の

点数の算定件数を抽出、その合計を医療的ケア児の数とし、総数の推計（表）を行った。

その結果、2015 年度における医療的ケア児の数は 1 万 7,078 人で、2005 年度（9,403 人）から大きく増加。在宅人工呼吸を要する患者数は 3,069 人で、2005 年度（264 人）と比べて約 12 倍に急増していた。奈倉氏は「医療的ケア児の約 2 割が人工呼吸器を使用している計算になる。4 歳までに人工呼吸器を使用し始め、成長しても離れられない患者が増加傾向にある」と述べた。

表 医療的ケア児数の推移

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
医療的ケア児数（人）	9,403	9,967	8,438	10,413	13,968	10,702	14,803	13,488	15,788	16,475	17,078
在宅人工呼吸器患者数（人）	264	1,403	655	468	844	1,330	2,502	1,928	2,337	2,743	3,069